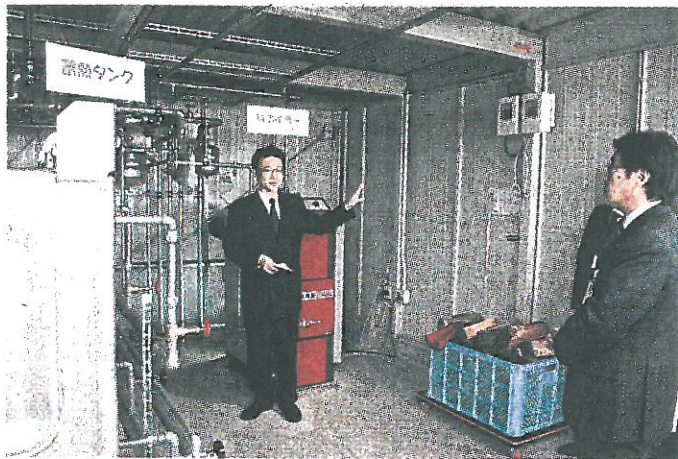


自然エネ 医院が導入

上越 災害に備え、まき暖房



上越市栄町2の小児科「塚田こども医院」が、まきを燃やした熱エネルギーを暖房に利用する「自然エネルギー・プラント」を導入した。災害や停電があった場合でも発電機で動かすことがで

きるほか、節電など省エネ効果が期待される。プラントはまきボイラーと蓄熱タンクで構成され、温水を暖房や給湯に使う。医院や併設の病児保育室を台わせ延べ床面積約700平方メートルの室内

見学者にプラントの仕組みを説明する塚田次郎院長(左)＝上越市

長は「地域の人を受け入れたり、まきを煮炊きに使ったりもしたい」と話している。

を20～25度に暖めることができる。設置費用は約1千万円。こうした設備が小児科医院に設置されるのは、県内では珍しいという。

きっかけは、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故による電力不足。塚田次郎院長(54)は「地域に根差した医院として、災害時にも診療を続けたい」と思い立った。

来春には熱利用の効率を高めるため、太陽熱を集めるパネルをプラントに追加する予定。塚田院